

平成元年～10年代 地域資源を活かし自立の道へ

■都市との交流促進

平成に入り、都市との交流促進のため、総合運動公園、ふれあい宿舎グリーンテージ、くずまき交流館プラトールなど、受け入れ環境の整備を進めました。現在では、年間50万人を超える町の観光客を受け入れる拠点施設となっています。



ふれあい交流施設（総合運動公園、ふれあい宿舎グリーンテージ）が完成（平成5年）

■新エネルギーの導入

平成11年、町は地域資源を活かして環境問題に取り組むため「葛巻町新エネルギービジョン」を策定しました。同年6月、袖山高原に3基の風車が完成し、現在に続くクリーンエネルギーのまちづくりの先駆けとなりました。



平成11年、袖山に完成した最初の風力発電施設（令和元年に事業終了）

■行財政改革と教育振興

全国で「平成の市町村合併」が進む中、町は自立を掲げて積極的に行財政改革を進めました。財政難の中にも、葛巻中学校の新校舎整備や学校給食センターの改築、中高一貫教育をスタートするなど教育環境の向上を図りました。



太陽光発電システムを備えた葛巻中学校新校舎が完成（平成12年）

昭和50年～60年代 北上山系開発と特産品開発

■北上山系開発プロジェクト

昭和50年、町は国の大規模畜産開発プロジェクトである「北上山系開発事業」に着手しました。8年の歳月をかけた事業では、土谷川、袖山、上外川の各団地を管理運営する「葛巻町畜産開発公社」が設立され（昭和51年）、大規模な草地造成と、道路やトンネルなどの整備が進められました。



昭和53年の上外川トンネルの貫通の様子



五日市から袖山へ続く道路の整備

■新たな特産品開発・山ぶどうでまちおこし

昭和61年、地域資源を活用して「新たな町の特産品を開発しよう」と葛巻高原食品加工(株)（現(株)岩手くずまきワイン）を設立しました。

山菜やキノコの加工から始まった事業は、昭和63年に山ぶどうワインの醸造を開始。生産、加工、販売の基盤を整備し、付加価値の高い製品を製造し続け、全国にファンを持つ町を代表する産業に発展しました。



葛巻高原食品加工(株)の創立祝賀会（昭和61年）

新葛巻町の誕生

■議論を重ね3町村が合併

昭和30年7月15日、岩手郡葛巻町、同江刈村、二戸郡田部村が合併し、新葛巻町が誕生しました。当時、田部村は一戸町を中心とする町村との合併の案もあり、住民からも様々な意見の陳情書が提出されるなど紆余曲折しましたが、3町村の議員などで熱心な話し合いを重ねられ合併に至りました。



新葛巻町の職員に辞令を交付する三浦藤兵衛合併協議会長（旧葛巻町長）

昭和30年～40年代 命と健康を守るまちづくり

■医療、保健衛生の基盤構築

合併後、町は医療と保健衛生の向上に力を入れました。葛巻病院の開設（昭和33年）、小児マヒ生ワクチンの全国初投与（昭和36年）のほか、公衆衛生組合の設立や各地域への保健委員の配置など、町民が一体となって命と健康を守るまちづくりに取り組み、昭和41年には第18回保健文化賞を受賞しました。



昭和30年代の葛巻病院（現在の森林組合付近）



小児マヒのワクチン投与を受ける乳児（昭和36年）

葛巻町66周年

一歩先ゆくまちづくりへ

昭和30年7月15日、旧葛巻町、江刈村、田部村の3町村が合併し新葛巻町が誕生。66周年を迎えた今日まで、酪農や林業などの基幹産業を振興しながら、町民が「丸となって」「ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち」を築き上げてきました。

人口減少という大きな課題に立ち向かう今、総合計画に掲げる町の将来像「未来を協創する高原文化のまち」を実現する足がかりとして、それぞれの時代に取り組んできたまちづくりの歴史を振り返ります。